

令和7年度「子ども科学体験推進事業」運営委託業務仕様書

1 委託業務名 令和7年度「子ども科学体験推進事業」運営委託業務

2 事業の概要

(1) 目的及び概要

本県は、子どもの科学や技術に関する興味・関心を高めるため、気軽に科学や技術に触れられる機会を提供する「体験型子ども科学館 0-Labo」（以下「0-Labo」とする。）を開設する。

0-Labo は、主に小・中学生を対象とした科学体験講座や科学や技術に関する常設展示を企画・運営するとともに、施設の運営や取組、実施状況、児童生徒の科学体験に対するニーズ等について調査を行う。

(2) 0-Labo の基本方針

- ① 子どもたちに実験や工作等様々な科学体験活動を提供する。
- ② 大学や企業、学校、NPO、団体、ボランティア等と幅広く連携・協働する。
- ③ 科学体験活動の情報を収集するとともに、科学体験活動を広く周知し、普及啓発を行う。
- ④ 科学体験講座の参加者の感想等について調査し、今後の取組の改善に努める。

(3) 施設について

- ① 名称 体験型子ども科学館 0-Labo（オーラボ）
- ② 場所 大分市府内町3-6-11 NTT西日本府内ビル1F（199㎡）

3 委託契約期間 令和7年4月1日（火）から令和8年3月31日（火）

4 運営の基準

(1) 講座実施期間

令和7年4月1日（火）から令和8年3月31日（火）

※第1回目の講座開始日については、県教育委員会と協議の上、決定する。

(2) 開館時間

10:00から17:00を標準とする。

(3) 休館日

4の(1)に係る休館日は、下記の日程を標準とする。

- ① 1か月に8日程度、休館日を設定することができる（週2回を標準とする）。
- ② ①の他、令和7年8月13日（水）から同月15日（金）及び令和7年12月29日（月）～令和8年1月3日（土）を休館日とすることができる。また、地方等での講座実施の際は、県教育委員会の承認を得て休館とすることができる。
- ③ 休館日は利用者に分かるように、施設における掲示やホームページ等を利用し、周知する。

(4) 科学体験講座の実施日数

- ① 0-Labo が開催する科学体験講座は、以下の6種類、年間160日とする。

- ア 通常講座 … 75日を標準（6-(2)-①-ア参照）
- イ 宇宙教室 … 5日を標準（6-(2)-①-イ参照）
- ウ ICT教室 … 5日を標準（6-(2)-①-ウ参照）
- エ サテライトラボ … 60日を標準（6-(2)-②参照）
- オ ESDサイエンスラボ … 10日を標準（6-(2)-③参照）
- カ チャレンジラボ … 5日を標準（6-(2)-④参照）

- ② 講座内容は、分野、形式、依頼する講師・団体等のバランスに配慮して選定し、ICTを活用した講座を年間10回以上実施する。
- ③ 台風の接近や積雪等、予め施設の開館及び講座の実施が困難であると判断できる場合は、県教育委員会と協議の上、前日の午前中までに中止の判断を行う。なお、前日が休日の場合は、直前の平日の午前中までに中止の判断を行う。また、その他の場合にも、受託者が特に運営上必要と認める場合は、県教育委員会の承認を得て計画した講座日を変更することができる。

(5) 個人情報の扱い

業務の遂行にあたって、個人情報を取り扱う場合は、その取扱いに十分留意し、漏えい、滅失及び棄損の防止等、個人情報の適切な管理に努め、個人情報を保護するために必要な措置を講じる。

(6) 文書の管理・保存

受託者が委託業務に伴い作成し、又は受領する文書等は、県の文書事務に関する諸規定に準じて適正に管理・保存する。

(7) 守秘義務

受託者は、業務を遂行するにあたり、業務上知り得た内容を第三者に漏らしたり、自己の利益のために使用したりしないこと。なお業務委託期間が終了しても同様とする。

(8) 再委託の禁止等

- ① 受託者は、業務の全部を一括して又は主たる部分を第三者に委任し、又は請け負わせてはならない。ただし、第三者への委任が業務の一部であり、書面により委託者の承認を得たときはこの限りでない。
- ② 前項の「主たる部分」とは、業務における総合的企画、業務遂行管理、手法の決定、技術的判断等該当業務に係る基本的な又は中心的なものに位置づけられる業務をいうものとする。
- ③ 受託者は、業務の一部（「主たる部分」を除く。）を第三者に委任し、又は請け負わせようとするとき（以下「再委託」という。）は、あらかじめ再委託の相手方の住所、氏名、再委託を行う業務の範囲を、再委託の必要性及び契約金額について記載した再委託（変更）承諾申請書を委託者に提出し、承認を得なければならない。
なお、再委託の内容を変更しようとするときも同様である。
- ④ 前項の規定は、受託者がコピー、ワープロ、印刷、製本、トレース、資料整理、計算処理、模型製作、翻訳、購入、消耗品購入、会場借上等の軽微な業務を再委託しようとするときは、適用しない。
- ⑤ 第③項のなお書きの規定は、軽微な変更該当するときには、適用しない。
- ⑥ 受託者が委託業務の一部を第三者に委託する場合において、これに伴う第三者の行為については、その責任を受託者が負うものとする。
- ⑦ 第①項の場合、受託者は自らの責任で再委託先に本契約に基づく一切の責任を遵守させることを条件として、県の機密情報又は個人情報を再委託先に提供し、これを利用させることができる

ものとする。

5 組織及び安全管理体制

(1) 業務統括責任者について

受託者は、業務に関して統括的に責任を負う者を1名配置するとともに、その職務代理者を定める。

(2) 職員の配置について

職員の配置は、下記を基本とする。

① 常勤職員2名程度

② 臨時職員5名程度

※繁忙期等については増員することもできる。

(3) 組織図及び緊急連絡網の作成について

業務等が一覧できる組織図及び緊急連絡網を作成し、県教育委員会に提出する。

(4) 安全管理について

① 施設内の安全管理について

ア 各講座の実施の際は、安全に実験や観察等が行えるよう、適切に人員を手配する。

イ 2の(3)の施設では、危険な薬品や大きな炎を使う実験等は実施しない。

② 保険加入手続き

ア 事故等を想定し、実験や工作等体験活動の参加者及び指導者を対象に賠償責任保険及び傷害保険の加入手続きを行う。

③ 保安警備業務

ア 防犯、防火及び防災に万全を期し、機械警備等を活用して保安警備業務を実施する。なお、トラブル等が発生した場合は、迅速かつ適切に処理し、その内容及び処理状況を県教育委員会に速やかに報告する。

④ その他

ア 万が一の事故等発生時の対応と日常的な管理運営について、安全管理マニュアルや連絡体制を整備すること。なお、安全管理マニュアルは、県教育委員会と協議の上作成する。

イ 安全管理マニュアルに基づいて定期的に安全点検を行う。

6 委託業務の内容

受託者は、上記2～5の令和7年度「子ども科学体験推進事業」の目的や0-Laboの基本方針、運営の基準等に基づいて、下記の業務を行う。

(1) 施設管理業務

① 電話（固定電話及びFAX含む）・電気・インターネット・Wi-Fi等の契約、設置等

② 基本備品整備・管理

ア 備品の点検、保守管理、備品修理

イ 備品台帳（品名、品番、金額（単価）、数量、管理場所、購入年月日等を記載）の整備

※備品とは、長期間にわたって、その性質、形状を変えずに使用に耐える物品をいう。

③ 清掃業務

ア 良好な衛生環境、美観の維持のため、施設内の清掃及び整理整頓を日常的、定期的に行う。

イ ゴミ処理は、法律・条例等を遵守し、適切に行う。

ウ 必要に応じて害虫駆除、窓ガラス清掃、エアコン清掃等を行う。

④ その他

ア 科学体験講座に必要なイス、机、ホワイトボード等は、リース等により配置する。

イ 管理運営にあたっては、1日の業務内容や参加者数、特記事項等を記した日報を作成し、適正な業務管理を行う。求めに応じて県教育委員会に提出する。

(2) 科学体験講座実施業務

受託者は、以下の科学体験講座を企画し、土・日曜日、祝日、夏休み・冬休み期間中に実施する。講座の内容及び講師情報については、企業、大学及び県庁各部局等の講師情報の提供を受けるなど、県と連携して実施することができる。なお、科学体験活動の普及・拡大の面から、新たな講師は優先的に選定する。

【参考】

・別紙1「科学体験講座実施一覧」

① 大分会場における科学体験講座

ア 通常講座【年間75日を標準】

(ア) 対象 主に小学生

(イ) 会場 O-Labo 等

(ウ) 内容

- ・企業や大学、高校等と連携した自然科学や科学技術等の各分野に関する実験や観察、ものづくり等を中心とした体験講座
- ・大学や企業を会場にした講座や研究施設の見学等、専門性の高い体験講座
- ・抽選に外れた応募者を対象にした体験講座（フォローアップ講座：10回程度実施）
- ・2025年日本国際博覧会に関する講座を1回以上実施する。

(エ) 定員 1回あたり35人を標準とする。

(オ) 時間 1講座90分を標準とする。

(カ) 回数 同内容の講座について1日2回を標準とする。

イ 宇宙教室【年間5日を標準】

(ア) 対象 主に中学生

(イ) 会場 O-Labo 等

(ウ) 内容 宇宙への興味関心を喚起し、将来の宇宙産業を支える人材育成を目的とした宇宙工学・宇宙物理学・生物学・天文学等、宇宙科学分野の体験講座
※県教育委員会と協議の上、企画し実施する。

(エ) 定員 1回あたり35人を標準とする。

(オ) 時間 1講座90分を標準とする。

(カ) 回数 1日1回を標準とする。

ウ ICT教室【年間5日を標準】

(ア) 対象 主に中学生

(イ) 会場 O-Labo 等

(ウ) 内容 科学技術への好奇心や先端技術活用意欲を高め、将来のICT系人材の育成を目的としたプログラミング学習等の体験講座
※県教育委員会と協議の上、企画し実施する。

- (エ) 定員 5回全てに参加できる30人を標準とする。
- (オ) 時間 1講座90分を標準とする。
- (カ) 回数 1日1回を標準とし、全5回の連続講座とする。

② サテライトラボ【年間60日を標準】

- (ア) 対象 主に小学生
- (イ) 会場 中津市、日田市、佐伯市、国東市、豊後高田市、姫島村、竹田市、豊後大野市、臼杵市、津久見市、宇佐市、杵築市、日出町、別府市、由布市、九重町、玖珠町の公民館、高等学校等 ※県教育委員会と協議の上、決定する。
- (ウ) 内容
 - ・地元の企業や大学、高等学校等と連携した体験講座
 - ・自然科学や科学技術等の各分野に関する実験や観察、ものづくり等を中心とした体験講座
- (エ) 定員 1回あたり30人を標準とする。
- (オ) 時間 1講座90分を標準とする。
- (カ) 回数 1日1回を標準とする。
- (キ) その他 年間60日の内訳は下記の通りとする。
 - ・中津市、日田市、佐伯市の3市は、各市で年間10日実施（月1回程度）
 - ・宇佐、国東・豊後高田・姫島、杵築・日出・別府、臼杵・津久見、竹田・豊後大野、由布・九重・玖珠の6地域は、各地域で年間5日実施（2か月に1回程度）

③ ESDサイエンスラボ【年間10日を標準】

科学技術に興味関心の高い子どものさらなる探究心や創造力の向上を促進し、先端技術を活用した持続可能な社会の構築に取り組む次世代の科学技術系人材を育成する。また、実社会の課題を解決する問題解決能力や新しい価値を生み出す資質の向上に特化した連続講座を企画し、実施する。

- ア 対象 小中学生（選考による35人を標準とする）
- イ 会場 0-Labo、大学・企業の施設等
- ウ 選考 選考委員会にて、8回全てに参加できる者を書類選考等で選考
※県教育委員会と協議の上、実施する。
- エ 回数 全8回（通常講座5回、派遣講座1回、宿泊講座1回、成果発表1回を標準とする。）
- オ 開催日 令和7年7月～11月
- カ 進め方 企画委員会を設置し、協議の上進める。
 - (ア) 委員 学識経験者、0-Labo職員、県事業担当者等により構成
 - (イ) 協議内容 年間計画、講座内容等
- キ 講座内容
 - 通常講座について
 - (ア) 内容
 - ・企業や大学等と連携し、自然科学の各分野や先端技術等幅広い分野に関する講座とする。
 - ・課題発見・解決型の学習活動や創造力を育てる学習等を取り入れた科学体験講座とする。
 - ・2025年日本国際博覧会に関する講座を1回以上実施する。
 - (イ) 時間 1講座120分を標準とする。

(ウ) 回数 全6回(科学体験講座5回、成果発表1回を標準とする。)

○派遣講座について

(ア) 期間 講座開催期間中、2泊3日で宿泊を伴う講座を実施する。

(イ) 内容 教室内では体験できない以下の内容を企画する。

・企業や大学等の先端技術関連施設の見学

(ウ) 派遣先 上記(イ)を体験できる企業や大学、研究機関等

(エ) その他 県教育委員会と協議の上、実施する。

○宿泊講座について

(ア) 期間 講座開催期間中の2日間(期間中、宿泊を伴う講座を実施する)

(イ) 内容 教室内では体験できない以下の内容を企画する。

・協働的な学びにより効果を深め、社会的課題に向けた提案ができる内容とする。

・課題解決型学習や講演会等を実施し、学んだことを活かすことができる内容とする。

(ウ) 派遣先 大分県内の社会教育施設

(エ) その他 県教育委員会と協議の上、実施する。

④ 科学技術系人材の育成に向けた科学体験講座(チャレンジラボ)【年間5日を標準】

科学技術系人材を育成するため、理数系に特化した探究型ハイレベル講座を実施する。数学・物理・化学・生物学・地学等の各分野に関する科学体験講座とする。また、理数系に関連する実生活での課題を解決し、ICTを能動的・効果的に活用する。

ア 対象 中学生

イ 会場 0-Labo、大学・企業の施設等

ウ 定員 1回あたり35人を標準とする。

エ 時間 1講座300分を標準とする。

午前120分(課題設定→仮説)

午後180分(観察・実験→結果の分析・解釈・考察→まとめ→アウトプット)

オ 回数 1日1回を標準とする。

(3) 科学や技術に関する展示及び図書コーナー等の企画・運営業務

① 科学や技術に関するパネル等の展示

ア 講座実施期間中は、0-Labo 施設内に科学技術に関するパネル等を掲示する。

イ 展示は、JAXA、JAMSTEC、国立科学博物館等の貸出展示物による企画展を実施し、来館者数の増加に努める。

ウ ISTS(宇宙技術および科学の国際シンポジウム)大分県府大会のレガシーを継承するとともに、大分空港のスペースポート活用に向けての機運を高められる企画を実施する。

エ いつでも科学体験やものづくり体験ができるように、常に簡易な工作キット及びプログラミング教材(ドローン、レゴマインドストーム、電子タグ MESH)、WEB ラボ(R3~5)の動画教材、テレビ等の視聴覚機器を設置する。

② 科学読み物等図書コーナーの設置

ア 大分県立図書館の団体貸出等を利用して、科学読み物等の図書コーナーを設置する。

イ 常時100冊程度の科学や技術に関する図書や講座に関連する図書等を配架する。

③ 講座未実施日の来場者への対応

ア 講座未実施日についても、来場者が展示物の観覧やWEB ラボ(R3~5)を利用した体験等、

施設を利用できるように準備し、対応する。

イ 県内の幼稚園・小学校等の社会見学等に対応する。

(4) 広報及び情報発信業務

- ① 講座参加者の募集や0-Labo 施設の周知のため、ポスターやチラシ、スケジュール等を作成し、学校等に配布する。
- ② ホームページや SNS 等を活用して、講座参加者の募集、科学体験講座の内容及び0-Labo の活動等の広報及び情報発信を行う。
- ③ 講座参加者が定員に達しない講座については、再募集を行い、定員に達するように努める。
- ④ 講座内容等を広く県民に知らせるため、ホームページ等を適時更新する。
- ⑤ 県が主催する研修会等を通して、科学体験活動のノウハウや0-Labo の取組について情報発信することにより、科学体験活動指導者の育成や科学体験活動の普及に努める。

(5) 調査業務

業務の実施にあたって、常に参加者等のニーズや満足度等について把握し、業務の改善等業務内容の充実を図る。

① 月次報告について

ア 講座毎の応募者数、参加者数、講座日以外の来館者数、実験教材使用者数、ホームページの閲覧回数、更新状況等を報告する。

イ 報告期日は、翌月10日までとする。

② アンケート等調査・分析について

ア 科学体験講座に対する県民ニーズや利用者層、参加者等の満足度等について把握し、講座の改善に活用するため、講座後にアンケート調査を行う。なお、アンケートの内容や実施方法については、県教育委員会と協議を行う。

イ アンケートについては、以下の項目が調査できるように作成する。

- (ア) 参加者の状況（参加者延べ数及び実数、講座別、月別、分野別、講座形式別、居住地別、学校別、学年別、参加のきっかけ）
- (イ) 参加者の科学体験講座に対する満足度
- (ウ) 参加者や保護者等のニーズ、要望、苦情
- (エ) 科学体験施設や科学体験活動等に対する参加者等の意識等
- (オ) リピーターの把握（参加者実数、回数別、学年別）

ウ 講座後のアンケートとは別に、講座参加者を対象として、科学や技術に対する興味や関心の変容等を調査するため、10月以降にアンケートを実施し、0-Labo における科学体験の効果等を分析する。

エ 本事業の効果を検証するために講座参加者を対象に追跡調査を実施する。調査の内容、方法については県教育委員会と協議する。

オ アンケート調査と分析の結果は、事業完了後に提出する実施報告書とともに提出する。

③ その他の報告項目について

上記以外に、次の項目について報告する。

- (ア) 「通常講座」の内容（写真、参加者の人数及び様子含む）及び成果と課題
- (イ) 「宇宙教室」の内容（写真、参加者の人数及び様子含む）及び成果と課題
- (ウ) 「ICT 教室」の内容（写真、参加者の人数及び様子含む）及び成果と課題

- (エ) 「サテライトラボ」の内容（写真、参加者の人数及び様子含む）及び成果と課題
- (オ) 「ESDサイエンスラボ」の内容（写真、参加者の人数及び様子含む）及び成果と課題
- (カ) 「チャレンジラボ」の内容（写真、参加者の人数及び様子含む）及び成果と課題
- (キ) 常設展示の内容（写真、来館者の人数及び様子含む）及び成果と課題

(6) 経理業務

上記(1)～(5)の業務に係る経理について処理する。

7 事業報告と委託金の支払い等

(1) 完了通知書及び実施報告書等

契約を締結した受託者は、事業完了後速やかに、次の①～④の書類を提出する。

① 完了通知書

② 労働契約書、賃金台帳、出勤簿、業務日誌等、勤務状況がわかる書類

③ 実施報告書

ア 実施報告書は、6-(5)の調査業務において調査した内容についてまとめる。

イ 実施報告書は完了通知書等とともに提出する。

④ その他必要書類（講座で配布された資料、講座参加者名簿等）

(2) 委託金の請求及び支払い

県教育委員会社会教育課による完了検査に合格した場合は、委託金の請求を行う。なお、委託金の一定の範囲まで前金払いすることも可能だが、前金払い請求の内容については、契約書の中で取り決めることとする。

8 その他

(1) 講座の実施については、より多くの子どもの体験の機会を与えることができるよう合理的配慮を行う。

(2) 講座の参加費は、原則無料とする。

(3) 事業実施にあたり、疑義が生じた場合や本仕様書に記載されていない事項については、県教育委員会と協議を行う。

(4) 月に1回～2か月に1回、県教育委員会と業務の進捗等の協議を行う。

(5) 他機関からの講座の連携協力依頼があった場合は、県教育委員会と協議を行う。

(6) 県教育委員会への報告は、文書及び電子ファイルにて行う。

(7) 受託者は、別紙2「自己評価指標」に基づき、目標を設定し、事業の達成状況について自己評価を行う。

	テーマ名	内容
1	スライムであそぼう	いろいろなスライムを作って、実験したり遊んだりします。
2	LEDが光るプラスチックの回路を作ろう	白川博士が発見し、ノーベル化学賞を受賞した「電気が通るポリマー」を使って回路の迷路を作り、LEDを光らせます。
3	光るクラゲの蛍光色素を作ろう	ノーベル賞を受賞した下村先生が発見した、クラゲの発光タンパク質と化学構造が似た色素を合成します。
4	炭酸バスボムをつくろう	重曹とは？クエン酸とは？実験で学んでから、炭酸ガスが出るバスボムを作ります。
5	アルギン酸ビーズを使った スノードーム	アルギン酸ナトリウムと塩化カルシウムの化学反応で作った人工イクラでスノードームを作ります。
6	もてる水をつくろう	海藻のネバネバ成分を使って「もてる水」や「人工イクラ」を作ります。
7	食用油から石けんをつくろう	食用油とオルトけい酸ナトリウムで石けんを作ります。好きな香りを付けたオリジナル固形石けん作りです。
8	低融点合金でアクセサリを作ろう	約120℃で溶ける低融点合金を使って、アクセサリを作ります。
9	宇宙塵(うちゅうじん)を探す～宇宙実験「たんぼぼ計画」～	宇宙塵を捕まえて、その中に生命の起源となる物質を探す「たんぼぼ計画」。そのアミノ酸の分析方法を実験します。
10	-196℃の世界	液体窒素を使ったおもしろ実験で、マイナス196℃の世界を体験します。
11	吸水ポリマーのひみつ	私たちの身近に存在する吸水性ポリマーという物質に着目し、どれだけ驚くべき機能を持っているかを、実験を通して楽しく学習します。
12	混ぜた色を分けるマジック	クロマトグラフィーで色の合成と分解を学びます。
13	燃料電池実験	究極のエコ技術、燃料電池の仕組みを学び水素と酸素を反応させて発電する実験を行います。
14	ニンヒドリン反応速度	アミノ酸の検出に用いられるニンヒドリン反応の速度は、様々な実験条件下でどのように変化するか反応速度式に基づいて考えます。
15	アゾ染料の化学合成と酸性度の調査	中和滴定の指示薬としても市販されている染料を自分たちで合成します。合成した化合物を使って、身近なもののpHを調べます。
16	「名探偵になろう」～犯罪捜査と科学実験～	実際の犯罪捜査に使われる科学実験、ルミノール反応や指紋検出を体験します。
17	冷え冷え冷却パックをつくろう	ひえひえ冷たいオリジナルの保冷剤を作ります。
18	物理の不思議 ダンススネイクと偏光板アート	音の不思議が学べる「ダンススネイク」、スタンドグラスのような「偏光板アート」を体験します。
19	虹色の万華鏡を作ろう	偏光板を利用して、キラキラきれいな万華鏡を作ります。
20	紙コップスピーカー	音が聞こえるしくみや、磁石とコイルで電気が生まれるしくみなど、身の回りに隠れている科学の不思議を楽しく学びます。
21	ぐるぐる回そうクリップモーター	電気と磁石の関係を「簡単クリップモーター」作りで学びます。
22	超伝導体による浮上実験	液体窒素を使って超伝導体をマイナス200度まで冷やし、その上に永久磁石を浮上させる実験を通して超伝導について学びます。
23	ゴム動力のプロペラカーを走らせよう	ゴム動力で走るプロペラカーを作って、エネルギーの変換について学びます。
24	歯ブラシカーをつくろう	歯ブラシと振動モーターで、歯ブラシカーを作ります。
25	モーターであそぼう	ファラデーのモーターとリニアモーターの仕組みを知る工作を行います。
26	電気の通り道	サムロータリスイッチ(切り替えスイッチ)とLEDを4個使って電気回路工作をします。
27	電子工作にチャレンジ～電子ホタルの製作～	回路基板に電子パーツを載せて、はんだ付けで「電子ホタル」(LEDを交互に点滅させる機械)を製作します。
28	ふねを知ろう！ふねを作ろう！～みずのちからではしるふね～	発泡トレーと紙コップ、ストローを使って水の力で走る船を作ります。
29	飛ぶことの不思議 ～よく飛ぶ飛行機をつくろう～	飛行機が空を飛ぶしくみを学び、グライダー紙飛行機を作り、飛ばします。

30	模型ロケットを打ち上げよう	模型ロケットの工作与打ち上げを行います。
31	ペットボトルロケットを飛ばしてみよう	噴出する水と空気の反作用によって飛行するペットボトルロケットを作製し飛ばします。
32	宇宙で火災は起こるのか	ろうそくが燃えるしくみを実験で観察します。宇宙のろうそくの炎を模擬した実験や、炎が燃料の上を伝わる実験を通して、宇宙で火災が起こるしくみを考えます。
33	電気エネルギーを作りだそう	身近な様々なエネルギーを電気エネルギーに変換する新技術を体験しながら学びます。
34	熱の伝わり方	人工衛星にも利用されている金属素材「ヒートパイプ」の原理を学んだり、材料による熱の伝わり方の違いを実験で確かめたりします。
35	ブラックホールってすごいやつ	最近撮影されたブラックホールの写真を中心に、ブラックホールの性質や不思議について楽しく学びます。
36	星と銀河の世界	星と銀河についてのお話を研究者から聞いて、学びます。
37	二重振り子でカオスを学ぶ	不思議な回転をする体操人形と、二重振り子を作り、最新の科学で注目されている「カオス」を学びます。
38	コマややじろべえを作って重心について知ろう	重心について知り、オリジナルのコマややじろべえを作ります。
39	望遠鏡を作ってみよう	レンズの性質を学習し、ケプラー式望遠鏡を作製します。
40	レーウエンフックの顕微鏡	直径2mmのレンズでカード式レーウエンフックの顕微鏡(単レンズ式)を作り、タマネギの細胞の核を観察します。
41	3Dホログラムとコーナリフレクター作りに挑戦	光の反射の現象を元に身の回りの科学について考えます。アクリル板とプラスチックミラーを用いて3Dホログラムとコーナリフレクターを作ります。
42	ジャイロ効果を体験しよう	ジャイロ効果を用いた紙ジャイロを飛ばしたり、こまが安定して回り続ける原理について考えたりします。
43	テンセグリティ構造をつくってみよう	まるで宙に浮いているように見えるテンセグリティ構造を組み立てて、その不思議な仕組みを観察します。
44	光と色のワンダーランド	LED とレーザーの光を液体に当てると違った色の光が見えることを利用して、色の中の汚れ具合を判定します。
45	光と色の不思議	実験を通して光や色の謎について探ります。簡易分光器を作って光を分ける実験をします。
46	光の箱を作ろう	ミラーシートとセロハンを用いて、色鮮やかな光の箱を作ります。
47	気体の不思議とサイダー作り	シュワシュワ美味しいサイダーを作って、質量保存の法則を学びます。
48	実験と工作で知る物理の不思議	物理の原理で動く工作を通して、科学の不思議を学びます。
49	石橋模型組み立てと測量体験	木製アーチを組み立てて強度を確認します。自分の歩幅を計算して、測量も行います。
50	医療におけるリハビリ体験	医療機関でのリハビリテーションとはどういうものなのか。最新の機材を使って機能回復の体験をすることで医療現場の現状を学びます。
51	おくすり実験室	粉薬の溶け方、おくすり水を水以外で飲むとどうなるかなど、様々な実験を通してくすりについて学びます。
52	園芸療法・福祉の魅力	多肉植物の寄せ植えやどんぐりアートなどを行い、園芸療法について学びます。
53	算数ゲームをつくろう	四則演算(足し算、引き算、かけ算、割り算)の考え方をを使って算数ゲームを作ります。ゲームを通して算数を身近に感じ、楽しく学びます。
54	世界経済を数学的に考えよう「為替の変動って？」	円高円安を理解し、各国のレートでゲーム方式で売買を行うことで、なぜ「為替」の変動について世の中が話題とするのか考えます。
55	正多面体のはなし～折り紙でいろいろな立体をつくろう～	折り紙でできたユニットを組み合わせて立方体や両三角錐を作ります。
56	実験室で青い温泉水をつくろう	別府鉄輪温泉や、アイルランドの世界最大の温泉などで見られる“青い温泉”を再現する実験を行います。
57	砂の中の宝石をみつけよう	おおいた姫島ジオパークの石や砂を顕微鏡で観察して、砂の中に隠された宝石を探します。
58	おおいた豊後大野 ジオパークの岩石標本を作ろう	おおいた豊後大野ジオパークに分布する岩石について、そのでき方を学んだり、性質を確かめる実験をしながら実物の石を選んでオリジナルの岩石標本作製します。
59	がけ崩れと台風の仕組み	災害のきっかけは、土の中や空の上などで起こっています。このような現象を実験観察して、災害の原因を理解します。
60	めざせ！未来の気象予報士	気象予報官の話聞きながら、実際に現業室で天気を予測する体験をします。雲を作る実験も行います。

61	オリジナル香水を調合しよう	オリジナルミニ香水作り体験と館内ツアーを行います。
62	暮らしと地球環境を考えよう	発電の原理や電気が送られて来るまでのしくみを学びます。
63	石油と未来のエネルギー	気体の実験や蒸留実験などを通して石油や未来のエネルギーについて学習します。
64	ごみ問題と自然エネルギー ソーラーカーを走らせよう	再生可能エネルギーの普及について考え、ソーラーカーを作って太陽電池について学びます。
65	手作りハイブリッドカー	ハイブリッドカーや電気自動車に用いられている電力回生の仕組みを学びます。
66	牛乳からプラスチックをつくろう	牛乳から作ったカゼインプラスチックで環境問題について考えます。
67	牛乳パックで工作しよう	牛乳について学習した後、キュービックパズルを作ります。
68	宇宙から降ってくる素粒子を見よう！	素粒子を見えるようにする「霧箱」で、謎がいっぱいの素粒子を調べます。
69	真空実験とバルーンロケット	真空実験で宇宙環境を学習し、バルーンロケットを作ります。
70	100億分の1太陽系マップをつくろう	宇宙はどれくらい大きいのか？僕たちのいる太陽系の大きさを？太陽系MAPを作成しながら宇宙の秘密を探ります。
71	光る星の砂で星座盤を作ろう！	星の砂を使って光る星座盤を作ります。私たちと星の砂の不思議な関係を、実験を通じて学習します。
72	はっばのひみつ	葉脈標本しおりを作って、はっばについて学びます。
73	食べて発見！大分県産イチゴベリーのひみつ	いちごが作られているハウス内の様子や、種と交配などについて学びます。
74	大分の夏の野菜&果物について知ろう	大分の特産であるピーマンやかぼすについて、成長を学んだり、実際に食べてみます。
75	タネの分散を学ぼう	海流で分散する色々な果実を観察して、様々なタネの分散方法を学びます。タネ(アルソミトラ)の模型を作って、飛ばしてみます。
76	骨・ほねパズルで体のしくみを学ぼう	人体模型を使って骨のパズルをしながら、体のしくみやはたらき、構造などを学びます。
77	赤血球の動きを顕微鏡で見よう	自分の皮膚表面から毛細血管内の赤血球の動きを観察します。メダカなど他の生物の血液の流れを観察し、動脈と静脈の流れの違いを学びます。
78	プランクトンと仲良しになろう	顕微鏡で、プランクトンや微生物を観察し、生態系やその役割について学習します。
79	番匠川にすむ水生昆虫をみつけよう	川底にたまる落ち葉の中から、そこに住む生き物を探し観察します。
80	川の生き物を調べよう	七瀬川に住む生物を採取して、川の生物や水質の調査をします。
81	カニと遊ぼう	カニは住む環境の違いによって形も食べ物も違います。カニの種類やオス・メスを見分け方を学びます。
82	煮干しの解剖	煮干しを解剖して、魚の体について学びます。
83	ニワトリの解剖	ニワトリを解剖して、人間の体の仕組みを考えます。本格的な解剖実験です。
84	ブロッコリーからDNAを取り出そう	遺伝子について考えます。ブロッコリーからDNAを取り出して観察したり、DNAの模型ストラップを作ります。
85	ヒトの肝臓について楽しく学ぼう	正常な肝臓の組織と脂肪肝の組織を見比べてみます。肝臓の働きや肝臓の病気についてクイズ形式で学んだり、肝臓すごろくで知識を身に付けます。
86	探ってみよう！脳の謎	視覚のトリックを体験しながら、見たり嗅いだりする能力の基である神経細胞の興奮を電氣的に考えます。
87	秋は木のタネがおもしろい！	タネは種類によって色や形は、いろいろ。鳥、風、重力など、運ばれ方もいろいろ。実やタネの不思議を探します。
88	野生動物のフィールドサインを探そう	森ではどんな動物がどんな暮らしをしているのだろうか？野生動物のスペシャリストが案内します。室内での座学とフィールドワークでの実施です。
89	高崎山のニホンザルを観察しよう	ニホンザルを近くで観察したり、クイズや体長測定体験を行います。
90	カイコの観察	カイコの幼虫を観察して、からだのつくりを調べます。また、まゆから絹糸をひく体験や工作をします。
91	イロトリドリに染めてみよう	様々な植物から色を取り出した汁とばいせん液に毛糸を浸けて染色をします。

92	食品の化学～微生物の力～	普段何気なく食べている「パン」。それに微生物がどのように関わっているのか実験を通じて考えます。
93	発酵と酵素について知ろう	生物の持つ酵素の実験、カッテージチーズ作りによるタンパク質の変性実験、酵母による発酵の実験を行います。
94	iPadでアニメーションを作ろう	iPad で自分の書いた絵をパラパラ漫画のようなアニメーションを作ります。
95	アルファベットスタンプを使ったエコバッグづくり	3D プリンターで作ったアルファベットのスタンプを使って、オリジナルのエコバッグを作ります。
96	プログラミングでシューティングゲームを作ってみよう	プログラミングでシューティングゲームを作ります。
97	空飛ぶドローンでプログラミングをしよう。	ドローンをプログラミングして動かし、ミッションに取り組みます。
98	ボール型ロボットをプログラミングしよう	ボール型のロボットをプログラミングして思い通りに動かしてみましょ。課題を解決しながら楽しく学びます。
99	親子で楽しむeスポーツ	本格的なeスポーツ施設で、親子でeスポーツを体験します。
100	KOOVで創造力を刺激しよう	ブロックで自由な「かたち」をつくり、「プログラミング」によってさまざまな「動き」を与え、ロボット・プログラミングKOOVを動かします。
101	宇宙エレベータをプログラミングで動かそう	レゴ教材の宇宙エレベーターを製作し、プログラムを組んで昇降実験などを行いながら、物資や人を運ぶ問題点や安全などについて考えます。
102	MESHでプログラミングを体験しよう	無線でつながるブロック形状の電子タグと身の回りの物を組み合わせて、新しい仕組みを作り出せるプログラミングのワークショップです。
103	Rootプログラミング	Rootを使用して、プログラミング教室を実施します。
104	レゴブロックで相撲ロボット大会！	レゴブロックでロボットを作り、プログラミングして相撲大会をします。
105	ロボットによるプログラミング教室	レゴマインドストームEV3ロボットを使って、プログラミングを体験します。
106	マイクロビットでプログラミング	プログラミング教材「micro:bit」で、双方向性を伴うプログラミングが体験できる「チャットシステム」を作成します。
107	ステンドグラスでストラップ作り	はんだごてを使って本格的なステンドグラスを作ります。ストラップかペンダントを作ります。
108	太陽の光を楽しむサンキャッチャー	太陽の光が当たると虹色に光るサンキャッチャーを作ります。
109	竹のボールを編んでみよう	直径12cmの竹ボールに竹ひごを編み込んで、自分だけの竹ボールを作ります。
110	よく飛ぶブーメランとブンブンコマづくり	よく飛ぶブーメランや音の出るブンブンゴマを作ります。
111	押し花アート	花の形を活かして素敵なオリジナル作品を作ります。
112	軽量樹脂粘土で作るアイスメモスタンド	軽量樹脂粘土で本物そっくりなアイスクリーム型のメモスタンドを作ります。
113	ダンボールクラフト「ASIMO」	ホンダのオリジナルダンボールクラフトキットでかわいいASIMOを作ります。
114	歯科材料でモノづくり	歯科材料のレジンや石膏を使って、歯形マグネットや指型ペンを作ります。
115	ピカピカ光る泥だんごをつくろう	土を使ってピカピカに光る泥だんごを作ります。
116	ゴムでっぼうをつくろう	カットされた木材を組み合わせてゴムでっぼうを作ります。
117	ミニ門松を作ろう	お正月に飾るミニ門松を、高校生と一緒に作ります。
118	AM・FMラジオを作ろう	AM/FM が聞ける本格的ラジオをつくりま。
119	一本弦のエレキギターを作ろう	音の実験と、エレキギター作りをします。
120	木製小家具を作ろう	木製のミニチュア椅子を作ります。完成した椅子は観葉植物やぬいぐるみを飾れます。
121	円形木琴を作ろう	癒しの楽器「円形木琴」をつくりま。自分で鍵盤の長さを工夫して、世界に一つだけの自分の楽器を完成させま。

◇令和7年度「子ども科学体験推進事業」自己評価指標

別紙2

基本方針	取組	指標項目	単位	実績				目標
				R3	R4	R5	R6	R7
(1) 子どもたちに実験や工作等様々な体験活動を提供します。	①年間160日以上 of 講座を実施します。	講座実施日数	日	170	176	184		
	②講座参加者数の増加を目指します。	延べ参加者数	人	6,226	6,264	6,866		
		・児童数		5,338	5,457	5,637		
		・保護者数		888	807	1,254		
		抽選漏れ児童・生徒の割合 (抽選漏れ人数/応募者数で算出)	%	42.7	60.2	40.0		
	③参加者の実数の増加による参加者層の拡大を目指します。	実児童参加者数	人	2,026	2,393	2,916		
	④講座未実施の日のO-Labo来館者数の増加を目指します。	延べ来館者数	人	712	279	178		
⑤科学体験活動の地域への普及を図ります。	サテライトラボ実施日数	日	56	64	63			
	延べ参加児童数	人	931	1348	1,237			
(2) 大学や企業、学校、NPO、団体、ボランティア等と幅広く連携・協働します。	①協力講師数(団体等含む)の増加を目指します。	協力講師・団体数	人・団体	89	100	116		
	②新規講師(前年度未実施)の獲得を図ります。	新規講師数	人・団体	19	20	22		
(3) 科学体験活動を広く周知し、児童生徒及び県民へ普及啓発します。	①HP・ブログの更新回数の増加を目指します。	HP・ブログ更新回数(概ね)	回	212	227	231		
	②ホームページの充実により、HP閲覧件数の増加を目指します。	HP閲覧件数	件	118,311	174,519	183,920		
(4) 科学体験講座の運営や参加者の感想等について調査し、取組の改善に努めます。	①適正な調査のため、アンケート回収件数の増加を目指します。	アンケート回収件数	件	3,853	4,009	3,951		
		・10月以降アンケート (科学や技術に対する興味・関心の変容について)	件	285	445	200		